

平成24年3月

# 藤井信行 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦  
副主査 井 藤 久 雄  
同 領 家 和 男

## 主論文

Cancer-associated fibroblasts and CD163-positive macrophages in oral squamous cell carcinoma: their clinicopathological and prognostic significance

(口腔扁平上皮癌における癌関連線維芽細胞およびCD163陽性マクロファージの臨床病理学のおよび予後的意義)

(著者：藤井信行、庄盛浩平、塩見達志、中林基、武田知加子、領家和男、井藤久雄)

平成24年 Journal of Oral Pathology and Medicine 掲載予定

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は108例の口腔扁平上皮癌標本を用いて、免疫組織化学染色により $\alpha$ -SMA陽性の癌関連線維芽細胞（CAF）およびCD68やCD163陽性の腫瘍関連マクロファージ（TAM）の浸潤および予後との関連性、あるいは両者の相互作用を検討したものである。その結果、Grade 2（focal）のCAF症例では、Grade 0/1（negative/scanty）のCAF症例に対して、CD163陽性マクロファージの有意な数的増加がみられた（ $P = 0.009$ ）。Kaplan-Meier生存分析の結果、Grade 2のCAF症例およびCD163陽性マクロファージ高値症例では有意に生存率が低下していた（ $P = 0.003$ および $P = 0.007$ ）。本論文の内容は、口腔扁平上皮癌周囲に出現するCAFおよびCD163陽性マクロファージの浸潤の程度がこの癌の予後予測因子となり得ることを示し、また、CAFとCD163陽性マクロファージが相互に作用して癌浸潤に関与している可能性も示唆したものであり、明らかに口腔外科学の学術水準を高めたものと認める。